

輝く未来を創る

平成30年度「事業計画」「収支予算」の概要

事業計画

わが国の経済は、世界経済の回復を背景に堅調な内需に支えられ、穏やかな回復が伝えられていますが、多くの地方の中小企業にとっては、人口減少と少子高齢化の進行などによる厳しい経済状況の中で景気回復が実感できないというのが実情です。

こうした中であって、地域経済を成長させるためには、地域唯一の総合経済団体である商工会議所が、「地方創生の加速」と「中小企業の活力強化」に自ら主体的に取り組むことが求められています。

「地方創生の加速」の実現手法の一つは、中小企業を中心に多くの業種が関与することができ地域を超えた取り組みが可能である「観光振興」が有効です。特に、京都舞鶴港を有する本市においては、旺盛なインバウンド需要が地域消費の拡大に大きく寄与します。

もう一つの「中小企業の活力強化」をするためには、

農林水産業との連携による地域経済の活性化を図ることが極めて重要な視点です。農林水産業の現場の課題と、商工業者が持つモノづくり技術や販売ノウハウを結びつけ、お互いの生産性向上と高付加価値化を実現することができるのは、私たち商工会議所です。

舞鶴商工会議所は、これらを推進する中核的な組織として、創意と連携を柱に「成長経済」の実現に主体的に取り組み、明るい未来を切り拓いていかなければなりません。

明日の舞鶴を「輝く未来」にするために、平成30年度の当商工会議所の運営にあたっては、役員・議員・会員が丸となり、引き続き、国・府・市との発展的な信頼関係を保ちながら組織を挙げて次の事業を重点として取り組んでまいります。

基本方針

1. みんなで、まちの賑わいを創出

人口減少や少子高齢化の進行が将来への不安を増幅させる中で、地方の疲弊はますます深刻化しています。豊かなまちづくりを進めるためには、「働く場」が不可欠であり、私たち企業経営者と行政・住民が一体となって、将来にわたり活力のあるまちづくりを進めなければなりません。

京都舞鶴港の機能向上や高速道路ネットワークの完成によって、京都府北部5市2町の観光ブランド力の向上や、「海の京都」広域観光圏の取り組みの推進等によって交流人口は着実に増加しており、昨年の観光入込客数は1,000万人を突破しました。この地域が有する歴史や文化、自然、食などの多彩な魅力をもってすれば、さらなる進展は十分に可能です。

私たちのまちは、海・山・川の豊かな自然と美しい

景観、地域独自の歴史や伝統文化・芸術など、魅力あふれる素晴らしい資源と美味しいグルメ食材にも恵まれています。また、世界記憶遺産の登録や、日本遺産の認定に加えて、昨年12月には世界遺産の候補である日本の「20世紀遺産20選」に選ばれるなど、強力で新たな可能性を持つ「観光ブランド」が確立されようとしています。

このように、私たち「民間」が頑張れる様々な「ビジネス環境」が整いつつあるのが、“今の舞鶴”の状況です。

日本が近代国家への第一歩を踏み出した明治から150年を迎える本年においては、近代化の歴史と共に歩んできた本市がさらに飛躍する年になるようにしていかなければなりません。私たちが、輝く未来に向かって、おもてなしの心と夢と希望をもって地域資源をフルに活かすことが、まちの賑わい創出につながります。